

夕二力電器株式会社

DXの取り組み

2026年5月28日

# DXビジョン：伝統と革新の融合

デジタル技術を積極的に活用し、発酵技術・ものづくり技術をさらに高度化。データに基づく経営と新たな価値創造を実現してまいります。  
代表取締役 谷口 雄史

私たちはデジタル変革を通じ、長年の発酵知見とものづくり技術を融合させ、食の新たな価値を創造します。以下の3つの戦略を柱に、お客様の暮らしに寄り添った進化を加速させます。

1

## 顧客体験のパーソナライズ

調理データ解析とAI提案による最適な発酵体験の提供。

2

## バリューチェーンの最適化

データ一元管理による環境負荷低減と品質向上。

3

## 共創によるエコシステム構築

プラットフォームを通じた新しい食文化の発信。

タニカ電器は、「美味しく、健康的な食」という伝統の想いを胸に、デジタル技術を翼として発酵文化の新たな未来を切り拓いてまいります。

# DX推進の基本方針

デジタル技術の活用により業務効率化とデータ活用を推進し、製造業としての競争力強化を図ります。

## 4つの柱

1

業務データの統合

業務プロセスの効率化を実現

2

データ経営

客観的なデータに基づく迅速な判断

3

製造・開発の高度化

技術継承と開発サイクルの加速

4

新事業価値の創出

発酵知見を活かした新サービス開発

# DX推進体制

代表取締役を総括責任者（CDO）とし、全社的なDX推進体制を構築しています。経営戦略とデジタル戦略を密接に連携させ、組織全体で変革を加速させる体制です。

## 経営トップ主導 （DX推進本部）

代表取締役が責任者を務め、戦略策定から予算配分、ロードマップの進捗管理までを直接指揮します。

## 部門横断連携 （現場実行チーム）

各部門から選抜されたメンバーが連携し、現場の業務課題を吸い上げて迅速にデジタル施策へと展開します。

## 外部パートナー との協力

外部専門企業と連携し、最新技術の導入や内製化支援を通じて、実効性の高いDX基盤を強化します。

## DX人材の育成 （社内スキル向上）

研修やOJTを通じて、各部門でデータを活用できる人材を育成し、現場主導の改善を継続できる体制を整えます。

# 基幹システム（ERP）の構築

部門ごとに分散した受発注・生産・在庫データを一元管理し、業務の属人化と情報分断を解消する次世代ERPを構築します。

## 受発注管理

販売計画と連動し、注文を自動的に生産要求へ変換。

## 部品構成管理 (BOM)

製品の部品構成をデジタル化し、仕様変更を即座に反映。

## 生産計画

設備と在庫状況を基に、AIが最適なスケジュールを生成。

## 在庫管理

原材料から完成品まで、全工程の在庫をリアルタイム可視化。

## 原価管理

プロセス実績に基づき、製品原価をリアルタイムで算出。

□ 期待される効果：属人化の解消、製造原価の可視化、在庫最適化、データ駆動型の迅速な経営判断。

# 製造・開発・食品事業のデータ活用

## 製造・開発データの活用

試作データを構造的に蓄積・可視化します。熟練技術者の勘に頼っていた領域を数値化することで、開発プロセスの高度化とスピード向上を実現します。

## 発酵食品事業のデータ活用

発酵温度や熟成度などのレシピ条件を詳細にデータベース化します。品質のバラつきを抑制するとともに、市場ニーズに合わせた迅速な製品開発が可能な体制を構築します。

DXロードマップ

# DXロードマップ<sup>o</sup>

1

## 短期

- 業務のデジタル化
- 基幹システム準備
- データ整理

2

## 中期

- 基幹システムの導入
- データ活用推進
- 業務プロセス改善

3

## 長期

- データ経営の実現
- 開発へのデータ活用
- 新価値の創出

KPI

# DX推進のKPI

## 業務効率の改善

業務プロセスを最適化し、手入力・転記作業を削減します。

数値目標：2028年度までに事務処理時間30%削減

## データ活用の推進

データをBIで可視化し、会議・判断に活用します。

数値目標：主要4領域を可視化／月1回以上活用

## 生産性向上

生産・在庫データを活用し、ムダと停滞を減らします。

数値目標：棚卸・集計作業20%削減／在庫差異率1%以内

## 新製品開発の効率化

試作・評価データを蓄積し、開発判断を速めます。

数値目標：新製品開発リードタイム20%短縮

# 情報セキュリティへの取り組み

情報セキュリティを経営の根幹と位置づけ、DX推進に伴うリスクに対し「技術・組織・人」の三側面から多層的な対策を強化しています。

1

## 経営ガバナンス

CISO主導体制でDX戦略と統合し、定期的なリスクアセスメントと経営会議での審議を徹底します。

2

## 技術的対策の強化

ゼロトラスト導入により厳格な認証プロセスを適用。暗号化と監視でデータ漏洩を確実に防止します。

3

## 意識改革と教育

全社的なeラーニングや訓練を実施。ITリテラシー向上によりヒューマンエラーを最小化します。

4

## 継続的改善

国際基準に準拠し、インシデント対応の定期テストとPDCAサイクルで恒久的な改善を継続します。

まとめ

# DX推進による未来像

2030年、タニカ電器は伝統ある「発酵文化」と最先端の「デジタル技術」を完全に融合させ、世界の食のあり方を変革するグローバルリーダーへと進化します。私たちのDXは、単なる効率化の手段ではなく、発酵の神秘を科学し、誰もがその恩恵を享受できる「ウェルビーイングな社会」を実現するための基盤です。

## デジタル発酵 プラットフォーム

調理家電から「発酵データの知能」へ。製造工程の可視化と解析により、職人の知恵をデジタルで再現するプラットフォームを確立します。

## 顧客にもたらす価値

パーソナライズされた健康管理と食体験。AIが最適な発酵状態を提案し、家庭でプロレベルの再現性を実現します。

## グローバルな挑戦

地域の食文化をデータ化し、世界の家庭へ発酵体験を輸出。国境を超えた「健康で持続可能なライフスタイル」の標準を創出します。

## 社会への貢献

食品ロスの削減と発酵技術による栄養改善を通じ、持続可能な食のサイクルを世界規模で構築し、SDGs達成を牽引します。

発酵の知恵を、デジタルの力で、世界中の食卓へ。